ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学　所属：国際看護学部　名前：土谷 僚太郎　作成日：2026 年 1 月 8 日

１．教育の責任

＊周手術期にある対象者とその家族に対して、術前・術中・術後における一連の看護を実践することを通して、急性期、および回復期における対象者・家族中心の看護の特徴を学ぶ。具体的には、手術を受ける対象者の麻酔と手術による影響を身体的、心理社会的状況を把握した上で適切な看護援助を行う能力の習得を目指す。そして、手術により変化した形態や機能に対応し、対象者の自立を考慮したセルフマネジメント支援を行う。

２．教育の理念

＊「豊かな教養と専門的学術、旺盛な自己開発精神、優れた国際感覚及び問題解決能力を備えた人材を育成する」という本学の教育目的をふまえ、学生個々人のもつ可能性を信じ、自立性、主体性を育むとともに、看護の本質を自ら考え、国籍、文化、習慣を越えた地球人としての人への看護を描ける国際性、倫理感を磨き、豊かな人間性を養うことを教育理念としている。

３．教育の方法

講義では、周術期にある成人の生体侵襲反応や生命維持における看護に必要な知識と援助方法を学ぶ。疾患の特徴や術後合併症の予防を学ぶことで、その人らしく生きることをイメージ化する。また、グループでディスカッションすることで、学びの広がりを期待し、主体性や自立性をはぐくむことに繋げる。解剖、疾患、症状、看護と看護の考え方の順序性を学ぶことで、看護のプロセスを考える能力を養う。また、そのひとらしく生きるということは身体面だけとらえるのではなく、精神面・社会面を含めた全人的にその人を捉える必要がある。疾患に罹患した人の特徴や生活上の困難を身体的な特徴だけでなく、精神的な苦痛、社会的な困難をイメージできるように説明を行った。また、最新の研究論文を使い、対象者の生に近い声を学生に紹介し、精神的・社会的困難をイメージ化することを図り、それをグループで共有、ディスカッションすることにより知識や考え方の広がりを求めた。身体的特徴については、一方的に説明するのではなく、実際に学生に体験してもらう、動画の視聴を問い入れることにより、記憶の定着を期待した。術後合併症の看護についても一つ一つの合併症に解剖、合併症、症状、看護の順序性を取り入れながら説明し、看護のプロセスを考える機会とした。

４．教育の成果

リアクションペーパー

解剖から疾患、看護を考える必要性に気付きを得た学生の反応を得ることができた。また授業中に出たわからないことへの質問をリアクションペーパーに記載する学生もおり、わからないことを放置するというロジックを一定数改善することができた。また、動画や実際に教員が実践したことへの反応もよく、理解することにつながったとのコメントが多かった。

学生からの反応

学生の反応として、知識と知識が繋がり、患者を理解できることができれば楽しいとのコメントを得ることができた。しかし、言葉をそのまま覚えるという学習となっている学生や記録の書き方や正解に焦点を当てる学生もおり、いかに患者の全体像や事象の理解につながるように授業をすすめていくかが課題である。また、授業のスピードが速いという反応もあった。わからないことはリアクションペーパーから受付け、次回の授業内でフィードバックするようにしていたが、シラバス作成時に 1 コマの内容を整理し、学生のレディネスに合った授業スピードで内容を網羅できるようにしていく。

今後は秋学期の授業アンケート結果も踏まえ、再度教育の成果を捉えていき、随時修正していく。

５．改善への努力と今後の目標

＊学生の傾向として、キーワードや重要なことを言葉としてそのまま記憶する傾向にある。患者の全体像をとらえるためには、覚えるだけでなく知識と知識を繋げて想像する、イメージする、理解することが必要となる。そのような学習となるように授業構成を工夫してきたが、なかなか結び付いていない。今後は知識と知識を繋げていける学習に取り組めるように授業を構成していく。

また、授業の展開スピードが速く、学生の理解が追い付いていない場面があるので、シラバス作成時から 1 コマの内容を整理し、学生の

ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学　所属：国際看護学部　名前：土谷 僚太郎　作成日：2026 年 1 月 8 日

レディネスに合った授業スピードで内容を網羅できるようにしていく。

【添付資料】

なし